

# 四半期報告書

(第42期第2四半期)

自 平成25年8月1日

至 平成25年10月31日

株式会社ロック・フィールド

神戸市東灘区魚崎浜町15番地2

(E00482)

# 目 次

	頁
表 紙	
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	7
2 役員の状況	7
第4 経理の状況	8
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	16
第二部 提出会社の保証会社等の情報	17

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年12月12日
【四半期会計期間】	第42期第2四半期（自 平成25年8月1日 至 平成25年10月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩田 弘三
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435-2800
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部長兼経理部部长 伊澤 修
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435-2800
【事務連絡者氏名】	上席執行役員管理本部長兼経理部部长 伊澤 修
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第2四半期連結累計期間	第41期
会計期間	自平成25年5月1日 至平成25年10月31日	自平成24年5月1日 至平成25年4月30日
売上高（百万円）	23,983	48,835
経常利益（百万円）	593	1,905
四半期（当期）純利益（百万円）	321	881
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	313	967
純資産額（百万円）	22,885	22,863
総資産額（百万円）	28,412	28,851
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	24.21	66.36
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—
自己資本比率（%）	80.5	79.2
営業活動によるキャッシュ・フロー （百万円）	876	2,954
投資活動によるキャッシュ・フロー （百万円）	△674	△1,367
財務活動によるキャッシュ・フロー （百万円）	△582	△1,325
現金及び現金同等物の四半期末（期 末）残高（百万円）	8,228	8,603

回次	第42期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自平成25年8月1日 至平成25年10月31日
1株当たり四半期純利益金額（円）	8.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は前連結会計年度より連結財務諸表を作成しておりますので、前第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結会計期間の主要な経営指標等については記載しておりません。
3. 売上高には消費税等を含んでおりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成25年5月1日～平成25年10月31日）におけるわが国経済は、政府の経済政策や雇用・所得環境の改善により雇用者の消費マインドの持ち直しの傾向が見られるものの、一方で海外経済の下振れの懸念もあり、依然として予断を許さない状況が続いております。全国百貨店売上高は、一部の高額品について消費回復の動きがあるものの、中食業界におきましては、コンビニエンスストア等の他業態におけるおそうぎの販売強化や、都市部の百貨店のリニューアルや増床等に伴い競合店舗数が増加するなど、当社を取り巻く競争環境は益々厳しさを増しております。

このような状況の中、当社は「The Mirai Salad Company」を目指し、基本品揃えや丁寧な販売、積極的な販売等を引き続き行うとともに、今日のおそうぎに限らず、明日以降もお召し上がりいただけるおそうぎ、ギフトとしてご利用いただける商品の取り揃えにも取り組んでまいりました。しかし、秋口からの台風や大雨による集客の落ち込みや原材料価格の高騰等の影響により、計画した売上高、利益を確保できず総じて厳しい状況で推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は23,983百万円、営業利益は562百万円、経常利益は593百万円、四半期純利益は321百万円となりました。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		平成26年4月期 第2四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	
R F 1	サラダ	百万円 10,192	% 42.5	% —
	フライ	4,012	16.7	—
	その他そうぎ	3,078	12.9	—
	小計	17,283	72.1	—
神戸コロッケ		1,686	7.0	—
いとはん		1,684	7.0	—
融合		362	1.5	—
ベジテリア		1,031	4.3	—
グリーン・グルメ		1,827	7.6	—
その他		106	0.5	—
合計		23,983	100.0	—

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「R F 1」ブランドにおきましては、基本品揃えの継続を行いながら高付加価値商品の提案を行いました。サラダでは「3種海の幸の贅沢マリネ レモン風味」や「北海道産炙り帆立と2色シトラスのカルパッチョ風サラダ」等、素材力を活かした商品をプレミアムサラダとして展開しました。また、フライにおきましても、当社の価値観である鮮度や健康といった要素を反映させた「淡路産ちりめんのつまみ揚げ」等の展開を行いました。その結果、売上高は17,283百万円となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、コロッケをより美味しく、より楽しく提供するために品質の向上と新商品の導入に努めました。口当たりをさらになめらかにした「たらば蟹のクリームコロッケ」を展開するとともに、もっちりとしゃきしゃきの2つの食感が楽しめる旬の秋ごぼうを使用した「九州のモチっとごぼうコロッケ」等、季節限定商品の販売も行いました。その結果、売上高は1,686百万円となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、主菜と副菜をトータルで食卓提案できる品揃えを行うために、季節感のある素材を使用した和さらだと主菜になるおかずの提案に取り組みました。「無花果と燻製チキンの和さらだ」をはじめとする人気の和さらだと合わせてお楽しみいただけるように、「メロカマの照り焼き」や「さんまの甘辛揚げ エリンギ添え」等の新しいおかず商品を展開しました。その結果、売上高は1,684百万円となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、野菜ジュースの強化や新たな素材を使用したフルーツジュースの展開を行いました。基幹商品である「緑の健康バランス30品目」に加え、「1食分の野菜が摂れる！濃厚緑の30品目」を販売し、健康意識の高いお客様から好評を博しました。また、10月には厚生労働省の展開するスマートライフプロジェクトに参画し、日本人に不足している1日70gの野菜が1杯で補えるジュースの訴求を行いました。その結果、売上高は1,031百万円となりました。

なお、前連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較分析は行っておりません。また、当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて374百万円減少し、8,228百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、876百万円となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益592百万円、減価償却費877百万円、法人税等の支払額560百万円等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、674百万円となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出361百万円、定期預金の預入による支出120百万円、長期前払費用の取得による支出119百万円等によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、582百万円となりました。これは、主に配当金の支払額291百万円、リース債務の返済による支出219百万円等によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は83百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。また、経営戦略の現状と見通しにおきましても、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

当第2四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの詳しい状況につきましては、「(2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループは、現在の事業環境に基づき最善の経営方針を策定することに努めております。今後も当社グループを取り巻く経営環境は厳しさを増すものと予想しております。このような状況を踏まえ、更なる業務改善や業務効率化等に取り組んでまいります。なお、具体的な内容につきましては、前事業年度の有価証券報告書の「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題」をご参照ください。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年10月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年12月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,394,374	13,394,374	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	13,394,374	13,394,374	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年8月1日～ 平成25年10月31日	—	13,394,374	—	5,544	—	5,861



## (6) 【大株主の状況】

平成25年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社岩田	兵庫県芦屋市大原町17-18	1,150	8.58
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	656	4.89
株式会社四国銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	高知県高知市南はりまや町1-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	621	4.63
ロック・フィールド取引先持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	535	3.99
岩田 弘三	兵庫県芦屋市	392	2.92
ロック・フィールド社員持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	345	2.58
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカ ウント (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4-16-13)	272	2.03
三菱UFJリース株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	241	1.79
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	224	1.67
岩田 夢隆	岡山市北区	217	1.62
計	—	4,656	34.76

(注) 1. 株式会社岩田は、当社代表取締役社長岩田弘三が株式の100%を保有する会社であります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)

224千株

3. 明治安田生命保険相互会社から、平成23年4月5日付で提出された大量保有報告書により、平成23年3月31日現在で673千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、明治安田生命保険相互会社の大量保有報告書の内容は以下の通りであります。

大量保有者

明治安田生命保険相互会社

住所

東京都千代田区丸の内2-1-1

保有株式数

673,600株

発行済株式総数に対する所有株式数の割合

5.03%

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年10月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 113,600	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 13,268,500	132,685	—
単元未満株式	普通株式 12,274	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,394,374	—	—
総株主の議決権	—	132,685	—

- (注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株含まれております。また、「議決権の数」の欄には当該株式に係る議決権の数12個が含まれております。
2. 「単元未満株式」の株式数の欄には自己株式45株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎 浜町15-2	113,600	—	113,600	0.85
計	—	113,600	—	113,600	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。なお、当社は前連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、比較情報である前第2四半期連結累計期間（平成24年5月1日から平成24年10月31日まで）に係る四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書は記載しておりません。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年8月1日から平成25年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年5月1日から平成25年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,903	8,648
売掛金	3,735	3,688
製品	61	61
仕掛品	70	107
原材料及び貯蔵品	203	311
その他	512	475
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	13,484	13,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,429	7,256
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,100	2,046
有形固定資産合計	12,477	12,250
無形固定資産		
その他	630	625
無形固定資産合計	630	625
投資その他の資産		
その他	2,293	2,253
貸倒引当金	△34	△10
投資その他の資産合計	2,259	2,243
固定資産合計	15,367	15,119
資産合計	28,851	28,412
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,179	1,272
1年内返済予定の長期借入金	222	77
未払法人税等	606	251
賞与引当金	492	507
その他	2,848	2,777
流動負債合計	5,349	4,887
固定負債		
長期借入金	—	74
その他	638	565
固定負債合計	638	639
負債合計	5,988	5,526

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	11,560	11,590
自己株式	△209	△209
株主資本合計	22,756	22,786
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	72	55
為替換算調整勘定	35	44
その他の包括利益累計額合計	107	99
純資産合計	22,863	22,885
負債純資産合計	28,851	28,412

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成25年5月1日  
至 平成25年10月31日)

売上高	23,983
売上原価	10,242
売上総利益	13,741
販売費及び一般管理費	※ 13,178
営業利益	562
営業外収益	
受取配当金	3
保険配当金	14
貸倒引当金戻入額	12
その他	10
営業外収益合計	39
営業外費用	
為替差損	6
その他	3
営業外費用合計	9
経常利益	593
特別損失	
減損損失	0
特別損失合計	0
税金等調整前四半期純利益	592
法人税等	271
少数株主損益調整前四半期純利益	321
少数株主利益	—
四半期純利益	321

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
 (自 平成25年5月1日  
 至 平成25年10月31日)

少数株主損益調整前四半期純利益	321
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△16
為替換算調整勘定	9
その他の包括利益合計	△7
四半期包括利益	313
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	313
少数株主に係る四半期包括利益	—

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成25年5月1日  
至 平成25年10月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	592
減価償却費	877
賞与引当金の増減額 (△は減少)	15
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△24
受取利息及び受取配当金	△4
支払利息	1
減損損失	0
売上債権の増減額 (△は増加)	46
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△146
仕入債務の増減額 (△は減少)	93
その他	△18
小計	1,433
利息及び配当金の受取額	4
利息の支払額	△1
法人税等の支払額	△560
営業活動によるキャッシュ・フロー	876
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△120
有形固定資産の取得による支出	△361
有形固定資産の売却による収入	1
無形固定資産の取得による支出	△65
長期前払費用の取得による支出	△119
差入保証金の差入による支出	△25
差入保証金の回収による収入	16
その他	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△674
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	85
長期借入金の返済による支出	△155
リース債務の返済による支出	△219
配当金の支払額	△291
財務活動によるキャッシュ・フロー	△582
現金及び現金同等物に係る換算差額	5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△374
現金及び現金同等物の期首残高	8,603
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 8,228



【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)
給料及び賞与	4,706百万円
賞与引当金繰入額	368
支払手数料	3,118

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年10月31日)
現金及び預金勘定	8,648百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△420
現金及び現金同等物	8,228

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成25年10月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月30日 定時株主総会	普通株式	292	22	平成25年4月30日	平成25年7月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年12月12日 取締役会	普通株式	239	18	平成25年10月31日	平成26年1月20日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成25年10月31日)

当社グループは、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年10月31日)
1株当たり四半期純利益金額	24円21銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(百万円)	321
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	321
普通株式の期中平均株式数(株)	13,280,729

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成25年12月12日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………239百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………18円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成26年1月20日

(注) 平成25年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年12月5日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 芝池 勉 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊東 昌一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの平成25年5月1日から平成26年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年8月1日から平成25年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年5月1日から平成25年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の平成25年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。